

令和7年第1回定例会3月議会 発言通告一覧表

市議会の本会議は、どなたでも自由に傍聴できます。本会議は午前10時から開会します。傍聴される方は議会棟3階傍聴者ロビーへ直接お越しください。発言内容の詳細については、次ページ以降をご覧ください。

発 言 順 位

3月3日（月）

(1)	千 住	啓 介	議員	(自由民主党明石)	…… P 2
(2)	梅 田	宏 希	〃	(公 明 党)	…… P 3
(3)	山 中	裕 司	〃	(市 民 の 会)	…… P 4
(4)	竹 内	きよ子	〃	(明石かがやきネット)	…… P 5
(5)	上 田	雅 彦	〃	(明石維新の会)	…… P 6
(6)	中 川	夏 望	〃	(市 民 の 会)	…… P 7
(7)	宮 坂	祐 太	〃	(明石かがやきネット)	…… P 9
(8)	中 村	茂 雄	〃	(明石維新の会)	…… P 10
(9)	三 好	宏	〃	(自由民主党明石)	…… P 11

3月4日（火）

(10)	国 出	拓 志	議員	(公 明 党)	…… P 13
(11)	辻 本	達 也	〃	(日 本 共 産 党)	…… P 14
(12)	中 西	礼 皇	〃	(対話の会あかし)	…… P 16
(13)	家根谷	敦 子	〃	(スマイル会)	…… P 17
(14)	黒 田	智 子	〃	(市 民 の 会)	…… P 18
(15)	林	丸 美	〃	(明石かがやきネット)	…… P 21
(16)	正 木	克 幸	〃	(明石維新の会)	…… P 23

3月5日（水）

(17)	出 雲	有希子	議員	(自由民主党明石)	…… P 24
(18)	長 尾	博 子	〃	(公 明 党)	…… P 25
(19)	山 下	祥	〃	(市 民 の 会)	…… P 26
(20)	石 井	宏 法	〃	(自由民主党明石)	…… P 27
(21)	飯 田	伸 子	〃	(公 明 党)	…… P 28
(22)	金 尾	良 信	〃	(市 民 の 会)	…… P 30

※ 順位については予定です。

令和7年第1回定例会3月議会発言通告一覧表

(代表質問)

発言順位	1	議員名	千住 啓介 (自由民主党明石)
発言事項	<p>1 令和7年度予算について</p> <p>(1) 平時における国民保護について</p> <p>(2) 兵庫県との連携事業について</p> <p>(3) スマートインターチェンジ設置について</p> <p>(4) 新ごみ処理施設建設について</p>		

(代表質問)

発言順位	2	議員名	梅田 宏希 (公明党)
発言事項	<p>1 南海トラフ巨大地震から市民を守る体制について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 南海トラフ巨大地震への認識と発災前後の対応について(2) 指定避難所のジェンダー平等、障がい者への対応等について(3) ペット同室避難の認識と対応について <p>2 小学校給食の無償化について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 石破総理の予算委員会発言への見解について(2) 国の再来年度以降の実施と明石市の対応について		

(代表質問)

発言順位	3	議員名	山中 裕司(市民の会)
発言事項	<p>1 これからのまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 対話と共創のまちづくりについて(2) こどもを核としたまちづくりについて <p>2 ごみの減量化・再資源化の推進について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) ゼロ・ウェイストあかしの取組について(2) 新ごみ処理施設の整備・運営に向けた取組について <p>3 明石の豊かな自然を守る取組について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 大久保北部市有地を里山として保護・保全する取組について(2) 大久保北部のスマートインターチェンジ設置に関する調査について		

(代表質問)

発言順位	4	議員名	竹内 きよ子 (明石かがやきネット)
発言事項	<p>1 令和7年度当初予算案について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 本市の財政状況と今後の見通しについて(2) 過去最大規模の予算編成について(3) 新たな財源確保のための対策について <p>2 本市の上水道・下水道管路の老朽化対策について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 上水道・下水道の適正管理について(2) 技術系職員の充足状況等について <p>3 魚住東部地区（新幹線車両基地計画地区）の農業振興について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 当該地区の農業の現状について(2) 今後の方向性について <p>4 学校現場の子どもたちへの支援について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 居場所サポーターの校内フリースペースへの全校配置による不登校児童生徒への支援について		

(代表質問)

発言順位	5	議員名	上田 雅彦 (明石維新の会)
発言事項	<p>1 令和7年度施政方針について</p> <p>(1) 「対話と共創」を第2ステージへステップアップさせることの背景とそれに込めた思いについて</p> <p>(2) これまでのタウンミーティングでの成果について</p> <p>2 上下水道管の安全対策について</p> <p>(1) 本市における下水道管による道路陥没の可能性について</p> <p>(2) 本市における上下水道管の安全対策の実施状況について</p> <p>3 「大阪・関西万博」に向けた本市の観光戦略について</p> <p>(1) 本市の観光戦略について</p> <p>(2) 万博来場者を本市に誘導するための広域連携施策について (3市2町連携、西日本・九州ゴールデンルートアライアンス等)</p> <p>(3) 万博参画に当たっての兵庫県との連携・役割分担について</p> <p>(4) 万博に向けた機運醸成と児童生徒の参画について</p>		

発言順位	6	議員名	中川 夏望(市民の会)
発言事項	<p>1 明石港東外港地区の再開発について</p> <p>(1) にぎわい創出のための具体的な計画について (要旨) 明石港東外港地区の再開発を検討するに当たり、明石市全体のにぎわい創出のビジョンを実現するための個別計画に従い、政策を推進する必要がある。 2026年度にはあかしSDGs後期戦略計画の計画期間となる。にぎわい創出のためのビジョンをどう実現するつもりなのか。本市の見解を問う。</p> <p>(2) 明石港東外港地区の再開発に対する本市の方向性について (要旨) 明石港東外港地区の再開発を県と連携を図りながら検討するに当たり、話し合いの場に立つ前提として、本市の方針や方向性を明確にする必要がある。明石港東外港地区の再開発についての本市の見解を問う。</p> <p>(3) 広く市民の声を聴く手段について (要旨) 明石港東外港地区の再開発のアイデアを得るためには、広く市民の意見を取り入れる必要があると考える。ただ、従来のパブリックコメントやタウンミーティングでは、市政に興味のない市民の声を拾うことは難しい。ターゲットを明確にし、プル型だけでなく、プッシュ型でも声を拾うべきではないか。本市の見解を問う。</p> <p>(4) 県との連携について (要旨) 県は、令和7年度当初予算案において明石港東外港地区における暫定の賑わいづくり事業を新たに計画しており、明石市が予算の半額を負担との記載がある。本市の当初予算案において計上されている650万円がその予算なのであれば、半額を負担する以上、市も企画立案や事業者選定に関与し、意見を述べるべきだと考えるが、その機会はあるのか。また、この事業は県が取り組んできた「明石港東外港地区再開発計画」を基にした社会実験なのか、それとも一旦白紙に戻して考えるものなのか。本市の見解を問う。</p> <p>(5) 景観重点地区に大蔵海岸から明石港東外港地区の海岸沿いを加えないか。 (要旨) 本市では都市景観形成地区(景観重点地区)に大久保駅南地区のみ指定されている。令和7年度に策定される「明石市景観計画」では、大久保駅南地区が景観重点地区として設定される予定である。この景観重点地区に大蔵海岸から明石港東外港地区の海岸沿いを加えることで、明石海峡大橋を望むかけがえのない海岸の景観を守らないか。本市の見解を問う。</p>		

発言順位	6	議員名	中川夏望(市民の会)
発言事項	<p>2 医療的ケア児等に対する支援の拡充について</p> <p>(1) 医療的ケア児支援ハンドブックをさらに使いやすいものへと改訂しないか。</p> <p>(要旨) 保護者の方から、医療的ケアが必要な子どもと家族のための支援ハンドブック(医療的ケア児支援ハンドブック)をもっと使いやすくしてほしいとの声を聞く。令和7年度には医療的ケア児支援ハンドブックの改訂が計画されているが、保護者の声を取り入れ、困りごとの解消につながる改訂をしないか。本市の見解を問う。</p> <p>(2) 在宅レスパイトを検討しないか。</p> <p>(要旨) 医療的ケア児保護者アンケートでは、3人に1人の方が、「保護者の用事や休息が行えない」と回答している。現在、明石市立市民病院でもレスパイト入院の受入れを行っているが、課題が多く、利用しづらい状況にある。医療機関をレスパイト施設として活用することが難しいのであれば、訪問看護等の制度を利用した在宅レスパイトを検討してはどうか。本市の見解を問う。</p> <p>(3) 障害児とその家族を対象としたプロスポーツ観戦の無料招待を企画しないか。</p> <p>(要旨) 医療的ケア児保護者アンケートでは、きょうだい児がいる家庭の88%が「きょうだい児に我慢や制限をさせている」と回答している。医療的ケア児を含む、全ての障害児とその家族を対象としたプロスポーツ観戦の無料招待を企画しないか。本市の見解を問う。</p> <p>(4) 市役所内の関係部署間の連携をさらに強化しないか。</p> <p>(要旨) 医療的ケア児の支援に関し、庁内で連携が取れている部署とそうでない部署があるのを感じる。切れ目のない支援を行うに当たって庁内での連携は不可欠であり、さらに強化しないか。本市の見解を問う。</p>		

発言順位	7	議員名	宮坂 祐太 (明石かがやきネット)
発言事項	<p>1 都市構造再編集中支援事業について</p> <p>(1) 本事業を活用する方針が示されている本市の2つのプロジェクトについて</p> <p>(要旨) 西明石地域交流センターi c o t t o整備事業を核とする西明石駅南地区のプロジェクト並びに、旧市立図書館跡地新施設整備事業と明石駅前歩行者デッキ延伸事業を2本柱とする明石駅周辺地区のプロジェクトについては、いずれも国の財政支援メニューである都市構造再編集中支援事業を活用する方針が示されています。本事業の活用による市財政への負担軽減効果額や、国との協議状況、スケジュールを含めた今後の予定等、両プロジェクトの詳細についてお伺いするとともに、明石駅周辺地区のプロジェクトにおける都市再生整備計画作成の進捗状況並びにその内容についてお伺いします。</p> <p>(2) 本事業の活用が見込まれる今後の本市のプロジェクトについて</p> <p>(要旨) 立地適正化計画を策定した本市において、一定の制約がありながらも国による総合的かつ集中的な支援を受けることが可能となる本事業については、今後も積極的な活用を図っていくべきと考えます。一例として、令和5年度の建設企業常任委員会から市長宛に提出した要望書に盛り込んだ新たな体育館の整備について、本事業の活用による市の財政負担の軽減が可能かどうか、調査研究、検討する価値は大いにあると考えます。今後の本市の様々なプロジェクトの実施に際しての本事業の活用について、市の認識をお伺いします。</p>		

発言順位	8	議員名	中村 茂雄 (明石維新の会)
発言事項	<p>1 子どもの育ちのためのスポーツ活動及び小学生の体力向上について</p> <p>(1) 運動を行う働きかけについて</p> <p>(要旨) 近年、子どもの体力は低下傾向にある。文部科学省が昭和39年から行っている体力・運動能力調査によると、昭和60年ごろを境に子どもの走る力、投げる力、握力などは、全年代において低下の一途をたどっている。</p> <p>また、学校の朝礼中に倒れる子ども、机に突っ伏すなど教室できちんと席に座っていることができない子ども、常に疲労を訴える子どもなど、必ずしも数値には表れないものの、明らかに以前とは異なる子どもの状況が見られる中、体力向上のための取組が必要と考えるが、本市の見解を問う。</p> <p>2 市政運営に関わる働き方について</p> <p>(1) 人員体制について</p> <p>(要旨) 市役所職員に求められる最も基本的なことは、市民に寄り添う姿勢であり、常に「市民の生活をどのように改善できるか」という視点を持ち行動することが大切であり、特に現在は多くの権限が国や県から本市に移譲され、自治体主導の地方行政が求められている。</p> <p>市役所職員は地方行政の最前線で活躍し、市民の悩みや希望を正確に把握し、それに適した住民サービスを充実させることがますます重要となってくる。</p> <p>今後さらに時間外労働が発生し、年休を取得しづらくなり、職員のメンタルヘルスに影響を及ぼすことを懸念しているが、対策等についてどのようにお考えなのか、本市の見解を問う。</p> <p>(2) 適正な業務量の把握及び業務改善のための業務プロセスの可視化について</p> <p>(要旨) 人員配置において、業務内容についての詳しいヒアリングが必要ではないか。</p> <p>管理職にて担当職員へのヒアリングは行われているが、業務プロセスを可視化することにより、組織全体、あるいは特定の部署の業務の流れを目に見えるようにするべきではないか。</p> <p>一つの成果を生み出す事業がどこから始まり、どこで終わるのか。さらにどのような業務があり人員がどれほど必要なのか、業務における課題や問題の把握・改善にもつながり、DXの取組を進め、業務改善を行うことで、職員の負担が軽減されるとともに、さらなる市民サービスの向上につながると考えるが、本市の見解を問う。</p>		

発言順位	9	議員名	三好 宏（自由民主党明石）
発言事項	<p>1 地方独立行政法人明石市立市民病院の今後について</p> <p>(1) 地方独立行政法人明石市立市民病院の今後について (要旨) 地方独立行政法人明石市立市民病院は、平成3年に新築されてから34年が経過し、老朽化が顕著になっており、将来を見据えた地域医療提供体制の在り方や、その中核となる市民病院の役割などの検討を進めている。現在は、外部有識者を交えて、市民病院のあり方検討有識者会議が開催され、今年度末には市民病院再整備の方向性が示されるようである。コロナ禍でもそうであったが、近い将来、発生が予想される南海トラフ地震などの災害時においては、災害対応病院になっていることから、市民病院の再整備は急務となっている。そして、地域医療体制の充実を図るためにも、県立病院とのさらなる連携強化を進めることが最重要課題であると考え。現在の進捗状況と市の認識を問う。</p> <p>2 明石市公設地方卸売市場に関する調査報告書と今後の在り方検討について</p> <p>(1) 新年度及びその後の検討方針について (要旨) 9月議会の質問に対する答弁では、卸売市場の在り方検討の進め方については、まずは場内業者の声をしっかりと丁寧に聞くことが重要であり、場内業者へのアンケート調査を9月中に行う予定であること、まもなく報告される調査報告書の結果を踏まえて、新年度はその方針をより具体化するため、有識者も交えての検討委員会の設置・運営、サウンディング調査などの取組を進めたいとの答弁であった。どのような形で、どのようなことを検討し、いつまでに結論を見いだしていくのかを聞く。</p> <p>3 野々池貯水池の跡地利用と林崎掘割水路の今後について</p> <p>(1) 野々池貯水池の跡地利用について (要旨) 水源転換によって、令和7年度以降に廃止が予定されている野々池貯水池の跡地をどのように利活用していくのか、現在の課題認識と整理、そして今後の方向性と取組について、市の考えを聞く。</p>		

発言順位	9	議員名	三好 宏 (自由民主党明石)
発言事項	<p>(2) 野々池貯水池廃止後の農業用水の確保と林崎掘割水路の保全及びその維持管理について</p> <p>(要旨) 野々池貯水池廃止後、林崎掘割水路を使用する必要がなくなることになり、関係する周辺農業者からは、今後、農業用水がどうなるのかといった不安の声がある。令和8年度まであと1年となる中、野々池貯水池廃止後の農業用水の確保が必要不可欠であると考えているが、市の認識を問う。あわせて、林崎掘割水路については、野々池貯水池廃止に伴い、これまでの維持管理がどう変わるのか、歴史的・文化的視点からの遺産の保全と実務的な維持管理について、市の認識を問う。</p>		

発言順位	10	議員名	国出拓志(公明党)
発言事項	1 市内の全小中学校の教室に内線機を設置しないか		
	(1) 様々な緊急時の小中学校内における連絡対応は。 (要旨) 現在の本市の全小中学校の緊急時の学校内の連絡対応について問う。		
	(2) 小中学校の全教室に内線機を設置しないか。 (要旨) 不審者や病気、けが等から子どもたちの命を守るためにも、緊急事態に備え、小中学校の全教室に内線機を設置すべきと考える。		
(3) 文科省の「不審者の学校侵入防止対策の強化について」の対策設備への補助金の活用は。			(要旨) 文科省の「不審者の学校侵入防止対策の強化について」に該当する対策設備として補助金の利用ができるのではないかと問う。
2 救急安心センター事業（#7119）について			(1) この事業の運用体制について
(要旨) 今後、予定されている運用体制を問う。			(2) 具体的な業務内容・方針について
(要旨) 今後、予定されている具体的な業務内容・方針を問う。			(3) 市民への周知徹底について
(要旨) 市民に対して、どのような方法・手段で周知を図っていくつもりなのかを問う。			3 市役所食堂について
(1) 市民ニーズに対する調査はどのようにしたのか。また、その結果は。 (要旨) 市役所食堂について、市民ニーズに即しているのかどうか、その調査及び結果について問う。			(2) 新しい市役所食堂の在り方について、さらなる調査研究が必要ではないのか。
(要旨) 様々な意見や方法、他の事例等を参考にして、知恵を結集し、工夫を考えながら在り方を検討するべきではないのか。			(3) 1日も早く、新しい食堂を実現するべきではないのか。
(要旨) 市民のため、職員のためにも、1日も早く新しい発想で新しい形の市役所食堂を再開するべきである。			

発言順位	11	議員名	辻本達也(日本共産党)
発言事項	1 令和7年度施政方針について		
	<p>(1) 「対話と共創」(コ・クリエーション)について (要旨) 市長は盛んに「対話と共創」を強調するが、特定の分野の市民からの対話要請を拒み続けているのはなぜか。「公開質問状」が提出されていることへの認識を問う。また、12月議会において、議員の質問に対して答弁しないケースが多々あり、改めるべきところが多いように感じた。認識を問う。</p> <p>(2) 持続可能な財政運営に向けた取組について (要旨) 新庁舎、新ごみ処理施設、市民病院、卸売市場など大型の公共施設の整備・更新が予定されている。これらの整備費用についての現状認識と今後の見通しはどうか。優先順位をつける、計画を見直すなどの判断も必要ではないか。認識を問う。</p> <p>(3) 人事行政について (要旨) 新たな人財育成の基本方針を策定する方針が示されたが、具体的には何を指すのか。現状については触れられなかったが、どのように考えているのか。職員との面談についても方針変更があったようだがどうか。昨年秋の事件について、いまだ庁内にも公表されていない。再発防止策などを示すべきだと思うがどうか。見解を問う。</p>		
	2 明石川のPFAS汚染について		
	<p>(1) 神戸市長との面談時の発言内容について (要旨) 昨年10月15日に神戸市長とPFASへの対応について意見交換を行ったと市長から説明を受けていたが、12月議会の市長答弁により実際の訪問目的は別にあったと理解した。改めて、訪問の主たる目的と発言内容について問う。</p> <p>(2) 昨年10月18日の環境省訪問について (要旨) 12月議会において、「汚染源の特定、暫定的な対策に係る財政支援、血中モニタリング調査実施の要望など意見交換も含めまして、かなり踏み込んでさせていただいております。そこで一定の手応えも感じておりました、今回、手引の第2版が出ました。そういったことも私は反映されているものだと思っております。」と答弁があったが、具体的にどのような話をしたのか。認識を問う。</p> <p>(3) 血液検査について (要旨) 市長は、政府とは別の見解をお持ちのようだが、その考えは今も変わらないか。市として血液検査を実施する考えはないか。認識を問う。</p>		

発言順位	11	議員名	辻本達也(日本共産党)
発言事項	<p>(4) 新年度の取組について (要旨) 予算説明資料「新年度の主な取組」では、有機フッ素化合物(PFAS)への対応について「拡充」となっているが、何を拡充するのか。「加えて、健康に不安を感じている市民に対応するため、あかし保健所において健康相談等を実施する」とあるが、これまでの取組との違いは何か。見解を問う。</p> <p>(5) 行政、事業者、住民、市民団体等が参加する大規模なフォーラムの開催について (要旨) 事業者から要望を受けている。明石市が主導し開催することを提案する。見解を問う。</p> <p>3 国民健康保険料率の引き上げについて</p> <p>(1) 子育て世帯への負担増について (要旨) 認識を問う。</p> <p>(2) 負担軽減策について (要旨) 他都市において、健康増進支援金や子育て世帯応援金を給付し、負担を軽減する取組が行われている。本市も行うべきではないかと考える。見解を問う。</p>		

発言順位	12	議員名	中西礼皇（対話の会あかし）
発 言 事 項	<p>1 市民参画の取組について</p> <p>(1) 市長へのおてがみ・まるちゃんポストについて (要旨) 市民からの要望や提案に対して返答をしない事業は市民参画と言えない。事業の廃止を含めて見直すべきである。</p> <p>(2) タウンミーティング「まるちゃんカフェ」について (要旨) 現在の取組について、課題を問う。</p> <p>2 ごみの減量・リサイクルの取組について</p> <p>(1) ごみ減量の取組について (要旨) ごみの量を減らす目的、現在の取組の成果、ごみ減量に関するそれぞれの取組や年度ごとに目標数値があるか、プラごみの分別によってどれだけの減量を見込んでいるのか等、ごみ減量について問う。</p> <p>(2) リサイクルの推進について (要旨) リサイクル率が低い原因と今後の対策について、また、紙おむつ、剪定枝等のリサイクルについての認識やこれまでの調査の成果を問う。</p> <p>(3) 事業ごみの減量について (要旨) 搬入手数料の見直し等、事業ごみを減らす取組への認識を問う。</p> <p>(4) 指定ごみ袋の導入について (要旨) アンケートの結果と指定ごみ袋導入の前に必要な取組について問う。</p>		

発言順位	13	議員名	家根谷 敦子(スマイル会)
発 言 事 項	<p>1 手話言語・障害者コミュニケーション条例について</p> <p>(1) 施策の実施状況や今後の取組について (要旨) 本市では、平成27年4月、手話言語・障害者コミュニケーション条例が施行された。条例に基づいた施策の実施状況や、今後の取組を尋ねたい。</p> <p>(2) 福祉体験学習について (要旨) 小学校では、点字や車椅子体験、発達障害者の感覚体験などの体験学習も実施していると聞いている。しかし、この体験学習が、市内小学校で平等に行われていないと市民から声が上がっている。市の見解を尋ねたい。</p> <p>2 旧優生保護法被害者支援条例に基づく取組の推進について</p> <p>(1) 旧優生保護法に関する新法施行について (要旨) 令和6年7月3日、最高裁は「旧優生保護法は違憲である」とし、国に対し被害者への損害賠償の支払いを求める判決を下した。判決を受けて国は被害者に謝罪し、補償金に関する新法を令和7年1月17日に施行した。新法制定を受けた今後の取組予定を尋ねたい。</p> <p>(2) 市民への理解促進・啓発について (要旨) 国は、優生思想に基づく障害者に対する偏見と差別を根絶し、共生社会の実現に力を尽くすとしている。本市としても、市民に対し、改めて理解促進・啓発が必要であると考え、今後の取組予定を尋ねたい。</p>		

発言順位	14	議員名	黒田 智子(市民の会)
発言事項	<p>1 (仮称)「あかし版こども計画」の策定について</p> <p>(1) こども・若者の権利を「伝える」施策について (要旨) こども・若者が権利の主体であることや、守られるべき権利とは何なのかが、こども・若者に、そして大人にも伝わっていない。伝える取組に力を入れないか。その際、就学前施設や学校との連携に、コーディネーター役が必要ではないか。</p> <p>(2) こども・若者の声を「聴く」施策について (要旨) 声を出しやすい環境を整えることが肝心だ。ワークショップなどの言いやすい場づくりだけでなく、スマートフォンから気軽に意見を表明できるオンラインの常設の場づくりも大変有効と考える。こども計画策定から始まる今後のこども・若者の参画の取組として、オンラインの意見聴取フォームを整備してはどうか。</p> <p>(3) こども・若者の声を「反映する」施策について (要旨) こども・若者の声を聴いた後の検討プロセスや結果、理由を、こども・若者に分かりやすくフィードバックすることは重要だ。「声を上げれば変えられる」「しっかり向き合ってもらえる」と実感できるようなフィードバックをしてはどうか。また、若者が感じる課題に共に向き合い、若者自身が解決していく後押しをする仕組み(ユースカウンシル)に取り組まないか。</p> <p>(4) 誰一人取り残さず、権利を「守る」施策について (要旨) 権利が守られない時、どこに相談すればよいのか。こども自身、若者自身が気軽に相談できる相談先がない。相談窓口がつかれないか。そもそも若者について担当する部署はどこなのか。明石版こども計画を策定していく今、体制づくりも必要ではないか。</p> <p>2 就学前後のしんどさを楽しにする取組について</p> <p>(1) 架け橋プログラムに取り組まないか。 (要旨) 初めての学校生活に大きな戸惑いを抱える小1プロブレムが、学校現場の課題となっている。文部科学省が進めている幼保小の架け橋プログラムを進め、就学前施設と学校が一緒になって、就学時のこどもたちを支えるプログラムを形づくっていったらどうか。</p>		

発言順位	14	議員名	黒田 智子(市民の会)
発言事項	<p>(2) 就学相談の伴走支援について (要旨) 就学相談では、「就学先を決めるのは保護者」というメッセージが前面に出され、保護者からは「相談できるようなものではなかった」との声を聞く。こどもの障害の受容は大変な苦悩を伴うが、就学相談では、その苦悩と同時に大きな選択を迫られる。保護者に寄り添いながら、よりよい選択ができるサポートができないか。</p> <p>(3) 5歳児健康診査からの保護者支援について (要旨) 本市では、これまで希望する保護者に行っていた5歳児問診を、来年度から全ての5歳児の保護者に実施する方向となった。問診から、支援が必要な保護者が個別相談につながり、こどもの発達や特性への理解を深めて就学相談を迎えられる取組ができないか。</p> <p>(4) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割が分かる発信をしないか。 (要旨) 専門職が果たせる役割や具体的な相談事例について、こどもたち・保護者・先生は、知らない場合が多いと考える。リーフレットの作成やホームページでの案内や通信等で、みんなにとってわかりやすい発信をしてはどうか。</p> <p>3 対話と共創の第2ステージに向けた具体的な取組について</p> <p>(1) 第1ステージの取組や成果をフィードバックしないか。 (要旨) タウンミーティングやまるちゃんポスト等の取組から、政策にどう反映されたのか。そのプロセスや結果のフィードバックがないとの声を聞く。第2ステージに進むためにも、これまでの取組や成果を見える化し、フィードバックする機会をつくってはどうか。</p> <p>(2) 民間提案制度について (要旨) 募集テーマをどのように決めているのか。そのプロセスを問う。また、2024年度に採用された24事業については、いつまでに、どのように事業化していくのか。</p>		

発言順位	14	議員名	黒田 智子(市民の会)
発言事項	<p>(3) 共創プラットフォームについて (要旨) どのような計画で進め、どのような課題を解決していくのか。 また、庁内の各課との調整はどのようにしていくのか。 市民参加型合意形成プラットフォームを活用する自治体が増えている。オンラインを活用することで、幅広い年齢層・幅広い生活スタイルの方が参加しやすくなる。導入しないか。</p> <p>(4) (仮称)対話と共創のウィークについて (要旨) 何のために開催するのか。どのような計画で進め、どのような課題を解決していくのか。</p>		

発言順位	15	議員名	林 丸 美 (明石かがやきネット)
発言事項	<p>1 アートを生かしたまちづくりについて</p> <p>(1) 芸術系大学やアーティストとの連携について (要旨) 芸術系大学やアーティストと連携し、まちづくりにアートの視点を取り入れてはどうか。芸術家は、既存の概念を超え新たな価値観を生み出す力を持ち、その創造性をまちづくりに生かすことで、地域の魅力向上や課題解決につながる可能性がある。学生やアーティストによるアートプロジェクトの企画、公共空間のデザイン協力、地域住民との協働による創作活動などが考えられるが、市の見解を問う。</p> <p>(2) 新規事業における活用について (要旨) アートは単なる装飾ではなく、施設の品格を高め、利用者の意識や空間の価値を向上させる効果を持つ。西明石地域交流センター i c o t t o (いこっと) 整備をはじめとする新規事業へのアートの活用について、市の見解を問う。</p> <p>(3) パブリックアートについて (要旨) パブリックアートは、都市の魅力向上や地域活性化の手法として有効であると考え。地域のシンボルとして公共空間にアートを取り入れることで、住民や観光客の注目を集め、まちの個性や魅力を際立たせることができる。また、地域のアイデンティティを強化し、文化的な深みを与える効果も期待できる。市内におけるパブリックアートの現状と今後の設置推進について、市の見解を問う。</p> <p>(4) 公共空間へのアート設置のための制度について (要旨) 欧米を中心に広く普及しているパーセント・フォー・アート制度や全国的に実施されている彫刻設置事業など既存の事業を参考にし、市として一定の予算を確保し、公共空間へのアート設置を推進できないか、市の見解を問う。</p> <p>2 こどもの居場所・遊び場について</p> <p>(1) 明石市における第三の居場所について (要旨) 核家族やコミュニティの希薄化が進み、不登校児童生徒の増加や体験格差といった子どもをめぐる課題がある中、第三の居場所の必要性がある。本市は学校になじめない子どもたちを対象としたフリースペースとして「トロッコ」や「ここのぼ」といった居場所整備を進めてきたが、誰もが自由に行ける児童館のような居場所・遊び場は十分ではない。さらなる整備が必要と考えるが、本市の見解を問う。</p>		

発言順位	15	議員名	林 丸 美 (明石かがやきネット)
発 言 事 項	<p>(2) プレーパークについて (要旨) 今年度、市内4か所の公園でプレーパーク事業が実施された。どの回も大盛況で、こうした遊び場のニーズが高いことが認識されたが、単発のイベント的な開催だけではなく、こどもの日常の遊び場として地域に定着し、こどもに関わる大人が常駐することが重要だと考える。来年度も実施される予定だが、今後の展望について、市の見解を問う。</p>		

発言順位	16	議員名	正木 克幸 (明石維新の会)
発言事項	<p>1 本市における産官学連動の医療体制の充実について</p> <p>(1) 将来的に医療の世界を目指す人材を増やす取組について (要旨) 2025年問題と称される諸課題の一つである将来にわたる医師不足に対し、国は、福祉と医療の連動を掲げているが、本市としてどのような認識を持ち、その課題に向き合うのか。市の見解を問う。</p> <p>(2) 将来にわたる医師確保について (要旨) 安定した医療を提供するために必須となる医師の確保について、本市の取組と将来ビジョンを問う。</p> <p>2 本市技術職員の拡充及びOJT要素を含んだジョブローテーションの在り方について</p> <p>(1) 現在、在籍している技術職員の配置について (要旨) 多岐にわたる技術職員の専門性や技術職員の配置基準について、市の見解を問う。</p> <p>(2) 来年度の技術職員の新規入庁予定者について (要旨) 来年度の予定採用者数及び今回から始めた採用に対する新しい取組について、市の見解を問う。</p> <p>(3) 来年度の人事異動におけるジョブローテーションの計画について (要旨) 6月議会で議論した、OJTによる技術職員育成の今後の具体的な方針について、市の見解を問う。</p>		

発言順位	17	議員名	出雲 有希子（自由民主党明石）
発 言 事 項	<p>1 パート・アルバイト職員の給与計算方法について</p> <p>(1) 源泉徴収税の甲欄と乙欄の適用基準について (要旨) 原則として乙欄は副業の従たる給与の時に適用されるが、本市での適用の基準を問う。</p> <p>2 ごみ減量化における本市のリサイクル・リユースについて</p> <p>(1) 古紙や古布等の本市におけるリサイクルの現状について (要旨) リサイクル可能な燃えるごみについて、現状とリサイクル率について問う。</p> <p>(2) 指定ごみ袋の導入について (要旨) ごみ減量化に向けて指定ごみ袋の導入を検討されているが、その詳細と予定について問う。</p> <p>3 上下水道事業について</p> <p>(1) PFAS対策について (要旨) 先日、市長は神戸市長と環境省へPFAS対策について要望書の提出に行かれたと聞いているが、そこで何か進展や今後の手応えがあったのかを問う。</p> <p>(2) 本市の老朽管の現状について (要旨) 埼玉県の下水道陥没事故でも見られるように、全国的に老朽管の整備が問題となってきている。本市の老朽管整備の現状と安全性について問う。</p> <p>(3) 水道事業の予算について (要旨) 通常でもここ数年、企業会計は厳しいと言われているにもかかわらず、本市は上記2件の問題対応でも水道事業経営を圧迫することが考えられる。水道料金の今後について、市長の見解を問う。</p>		

発言順位	18	議員名	長尾博子(公明党)
発言事項	<p>1 高齢者が地域で安全で安心して暮らせる取組について</p> <p>(1) 独り暮らし高齢者の孤独死防止の取組について (要旨) 少子高齢化の中、高齢者の独り暮らしも増え、自宅で亡くなる方も増えている。本市の独り暮らし高齢者の孤独死防止対策を問う。</p> <p>(2) 本市の特殊詐欺の状況と対策について (要旨) 本市でも巧みに信じ込ませてだます特殊詐欺に遭う人が増えている。特に高齢者が多額のお金をだまし取られる被害に遭っている。本市の現状と被害防止の取組について問う。</p>		

発言順位	19	議員名	山下 祥（市民の会）
発言事項	<p>1 にぎわいのあるまちづくりに向けた新年度の取組について</p> <p>(1) 「（仮称）大蔵海岸みらいプロジェクト」の実施について （要旨）今年度の庁内における内部検討チームの発足を経て、新年度のプロジェクトが実施されると認識している。現在までにどのような検討がされ、新年度はどのようにしてプロジェクトが運営されるのか、進捗と方針を問う。</p> <p>(2) 神戸マラソンの開催協力と合わせ、大蔵海岸内の市道を「（仮称）あかしサンセットロード」と愛称化しないか。 （要旨）神戸マラソンの折り返し地点として大蔵海岸に多くの注目が集まることになる。メディアやランナーを通じた認知拡大に当たり、公園名称だけでなく、夕陽がきれいだという魅力をPRするために、折り返し地点における市道を愛称化しないか、見解を問う。</p> <p>(3) ビーチ併設のバスケットコート設置に向けて （要旨）新年度予算資料に、都市公園の魅力向上の取組として「地域と合意形成が図れた公園などにおいて、バスケットゴールを設置する」とある。かねてより提案しているように、沖縄県アラハビーチや大阪府泉南ロングパークなどを参考に、大蔵海岸の芝生広場にバスケットボールコートがあると良いと考えるが、調査検討の進捗と本市の考えを改めて問う。</p>		

発言順位	20	議員名	石井 宏法（自由民主党明石）
発言事項	<p>1 明石市の財政見通しについて</p> <p>(1) 明石市の財政見通しについて (要旨) 令和7年度当初予算案の参考資料「今後の収支見込み」によると、市・国の人口推計を基にした収支予測は、いずれも将来的に悪化が見込まれる。今後の財政見通しについて、本市の見解を問う。</p> <p>(2) 財政健全化に向けた人口政策について (要旨) 税金は人口の増減と密接に関係しており、収支の急激な悪化を防ぐためには、現在の人口を維持することが重要である。社会全体の人口減少が進む中で、本市の人口維持のための具体策について、見解を問う。</p> <p>(3) 財政健全化に向けた支出の見直しについて (要旨) 大型整備の起債償還が本格化する前に、財政健全化のための支出見直しが必要と考える。本市の見解を問う。</p> <p>2 環境と経済の好循環のまちづくりについて</p> <p>(1) 環境と経済の好循環について (要旨) 新年度予算の基本的な考え方の中で「環境を良くすることが経済を発展させ、経済の活性化が環境を改善する」との考えが示されている。これを実現するためには、綿密な戦略と強い実行力が求められるが、本市の見解を問う。</p> <p>(2) 環境産業局の設置について (要旨) 今年度から新設された環境産業局の設置には合理的な理由があったのか。また、これまでにどのような成果を生み出したのか、本市の見解を問う。</p> <p>(3) 省エネ・再エネ設備の導入促進、公共施設への太陽光発電設備の導入について (要旨) 省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入促進や、公共施設への太陽光発電設備の設置において、経済・社会・環境の三側面が統合的かつ合理的に考慮されているのか。また、これらの施策が目標に対して実効性のあるものになっているのか、本市の見解を問う。</p>		

発言順位	21	議員名	飯田伸子(公明党)
発言事項	<p>1 女性の活躍推進のためにさらなるデジタル人材の育成を</p> <p>(1) 女性デジタル人材育成の取組の現状と成果について (要旨) 国は令和4年に、女性の就業獲得や所得向上に向け「女性デジタル人材育成プラン」を策定した。これを受け、市も同年より女性のデジタル人材育成に取り組んでいるが、その現状と成果を問う。</p> <p>(2) 女性デジタル人材のさらなる育成の取組について (要旨) 市は新年度の主な取組の中に、女性活躍推進事業の一環としてデジタル人材育成を掲げている。今までの取組を踏まえ、今後さらにどのように取り組むのかを問う。</p> <p>(3) デジタルスキルを身につけた女性が社会で活躍できる支援について (要旨) 女性の活躍は社会の発展につながる。デジタルスキルを身につけた女性が社会で活躍できる支援が必要だと考えるが、市の取組を問う。</p>		
	<p>2 「本のまち」推進の取組について</p> <p>(1) 市が推進している「本のまち」の目指すところについて (要旨) 市は「あかしSDGs前期戦略計画」において「本のまち」の推進を定め、その具体的な取組の方向性を示す「明石市本のまちビジョン」を今年度内に策定予定である。市が考える「本のまち」の目指すところについて問う。</p> <p>(2) 「本のまち」を目指すための体制整備について (要旨) 市立図書館、こども夢文庫等のブックスポット、学校図書館等様々な本と触れ合う施設があるが、一丸となって「本のまち」を盛り上げるための連携や役割分担などの体制整備はできているのか。</p> <p>(3) 子どもたちにより良い読書環境を整えるため、学校司書の1校1名体制に真剣に取り組まないか。 (要旨) 学校司書は図書館の管理だけでなく、子どもと本をつなぎ、授業や学習をサポートする等大切な役目を担っている。子どもたちにより良い読書環境を整えるため、学校司書の1校1名体制に真剣に取り組まないか。市の見解を問う。</p> <p>(4) 学校図書館の蔵書の管理状況について (要旨) 学校図書館は子どもたちにとって最も身近な図書館であり、蔵書の量・質・内容いずれも重要である。市が目指す学校図書館の在り方とその管理状況について問う。</p>		

発言順位	21	議員名	飯田 伸子(公明党)
発言事項	(5) 「本のまち」推進の取組を広く周知し、盛り上げる取組について (要旨) 民間の書店や本市にゆかりのある作家等も巻き込んだイベントの実施や市民の目に留まる広報などで「本のまち」を広く周知し、盛り上げないか。		

発言順位	22	議員名	金尾 良信(市民の会)
発言事項	<p>1 障害者が災害時に障害特性を踏まえた適切な支援を受けられるように</p> <p>(1) 周囲には一目で分かりづらい障害者への支援について (要旨) 聴覚障害者や知的・精神障害者は一目で障害があることが分かりにくく、災害時には支援を受けづらい状況にある。障害当事者やそのサポートに当たる近隣のひなんサポーターが一目で認識できれば、安心できる避難生活につながるのではないか。災害に備えた対応について、市の見解をお答えください。</p> <p>(2) 在宅避難や車中泊避難をした障害者への支援について (要旨) 在宅避難や車中泊避難をした障害当事者においては、支援情報が伝わらない、支援物資を受け取れない、必要な医療支援や健康相談が受けられない等の課題が予測される。その対応について、市の見解をお答えください。</p> <p>2 住みなれた地域で安全安心に暮らせる環境づくり</p> <p>(1) 市内のスクールガードの現状と課題について (要旨) スクールガードをしてくださっている方々が高齢化し人材の確保が困難となってきており、個々への負担が増えてきている現状であるが、本市としての今後の対応策をお答えください。</p> <p>(2) 通学路の安全対策強化について (要旨) 市内に宅地が増加する中で、かなり狭い通学路や信号機のない交差点など、地域によって課題が発生し、交通事故も起きている。学校の新学期に保護者等に近隣での見守り等の協力要請ができないか、市の見解をお答えください。</p>		